(1)

天保十四年 癸卯 正

日記

六ノ下

押

門類號 1 50 119

一（天保九年）ヨリ
六ノ上（天保十四年六月）迄
缺

七、八二冊缺

大正十四 成瀬 植

共五十七冊
二千五

子美

金沢大学附属図書館所蔵「成瀬日記」

七月小廿日申

一今日辛酉之事吉

一今日新之事対之信手。戌巳亡手
ニる也五巳三候。会人巳之八候
近方ニ八事対ニ之ニ信ニ掛七事対ニ洋

二日巳ニ事対ニ信よう而候ニ

一今日陰雲ニ候日ニ事対ニ之ニ

こゝ両書到着、定日取、保田より
こゝる但手紙着、定日●寺七時発足ゝる
右国元より差立之事ニ而、延引ニ而
相済候旨、定会ニ而
九日 三等妻鬼手
こゝる飛脚定日取着来
十日 三等壱

こゝる木村 重厚世子ゝ代ゝ
先達而中ゝ之処八時ゟ之定手
ニて世子ゟ之ものし来て世子ゟ之
状ニて世子ゟ之ものし来て世子ゟ之
状ニて世子ゟ之ものし来て世子ゟ之
状

一、今日御書室ニ於テ御目見ヲ仰付ラル。
廣瀬順次郎申刻参出ス。勅使別紙ノ通
重子將軍王ニ宣旨二箇條ヲ以テ
一、今日ハ御祭礼ニ付
十二日ニ至ル迄ハ
一、諸掛物ハ御寺ヨリ預リ置ク事
十三日ニ至ル。

一、今日論語四ノ巻ヲ終ル
一、今日御休息ニ付
十四日ニ至ル
一、今日ハ御祭礼ニ付
宮ニ於テ

金沢大学附属図書館所蔵「成瀬日記」

十六日 天晴
一 今朝伯堂 会後白牛 揚
帰 今夕雨
十七日 天晴
一 今日種痘 施術 宗平 ニ廿 ヨリ
ヨリ 来 ル 伯堂 ヨリ
来ル 外 ニ 伯堂 ヨリ 強飾

十八日 天晴
一 今朝 ヨリ 大雪 降十 ニ 至 ル
二 昨 ヨリ 雨 ニ 而
一 今日 ヨリ 術 施 宗平 ヨリ 帰 ル
十九日 天晴
一 今朝 未 ヨリ 雪 ニ 而 新 雪 ニ 至
遠 ニ 雷 有 リ
一 今日 有 リ 千 ヨリ

金沢大学附属図書館所蔵「成瀬日記」

淺二氏館へおもむく一昨日より二日逗留
一昨日伯堂ニ而催ス所へ出ル
ゟ帰路ニ而一二之酔漢ニ出合ひ
ゟ帰ル
用事ニ而八ツ半頃ゟ出ル
ゟ帰ル
ゟ帰ル
ゟ帰

座いと申屋洞一船加計ニ而ハ
池ノ谷ゟ口ノ口ハ橋掛ケ口ゟ大なる魚ニ
二寸三四寸ゟ第ノ方ニ行ク小屋洞ニ
川通ニ下リ又七軒計ノ方ニ通ル
此ニ而一ツ筆ニ書ニ而ハ
一ツ通ル洞新兵衛方ニ居合ル人ニ
一ツ伴ニ而九時ノ方ニ元ノ宿ニ
ゟ帰ル

おる方一箱程ニ而人九軒ニ人半ニ
八軒ニ而ハ一軒ノ方ニ而ハ洞ニ而
一ツ通ル橋口ニ而ハ右ニ付ル
来ル二日ニ延ス
此ニ而ハ
一ツ通ル不計ニ
一ツ通ル触ニ居合ニ而ハ

廿七日 三番吉

一二弓ヲ術 銃ヲ吉定 四発 銃ヲ発ヲ

役引ニ入テ 左ニスルカヲ

一ヲ射ル八本射ヲ四発ヲ二八本 重ヲ把ニ的射ニ

リ 吉田ヲ発ヲ

一ヲ射ル銃ヲ発ヲ 廿ヲ射 十本射ヲ

一ヲ射ル銃ヲ発ヲ 十本射ヲ

石黒ヲ発ヲ田中ヲ発ヲ高発ヲ

廿八日 三番吉

一今朝未ヲ銃吉定ヲ日ヲ雨保田ヲ発ヲ

ヨヲ入ヲ的ヲ 九射ヲ佛

一今日設射 銃吉定日雨小東射大分ヲ

大田ヲ発ヲ父子兼ヲ雨九人ヲ入ヲ

銃吉定ヲ 等合佛

廿九日 天気吉

二月朔日 晴 午後より雨 昨日
暮頃より 生駒勝之 来る 長谷川
甲斐守 逝去 七日より 五日之 忌
二百三拾壱
一 昨日 御堂之後、日守 水野 迄 お出被
成 而 帰宅 之 処、 中納言 大隅 御国 御中 出被
陳謝 候 旨 前田 日 記 齋 王 覚 書 一 通 而 来 受

三拾一 晴 昨日 御堂 出 仕 之 事
二百三拾壱
一 今日 論語 始 之 会 日 ニ 付 久 世 通 之
来 ル 被 九 半 時 分 より 右 之 御 方 へ 罷 出
候 一 御 老 中 へ 之 御 年 賀 御
年 始 之 為 御 礼 ニ 罷 出 候 事 ニ 而 無 之
子 刻 ニ 帰 宅 ニ 付 三 拾 一 日 ニ 年 賀 ニ 罷 出

金沢大学附属図書館所蔵 「成瀬日記」

之平陸調出矣廿之事一事一ツ宛渕
ゟ使ニ而八事ニ而参ル
一ツ七ツ半ゟ八ツ半迄ニ二升ニ而借ル
七日一ツ事書
一ツ郡ゟ御
一ツ申渡
一ツ一ツ我ゟ之御出ニ而十事ニ而参ル
高井信濃
八日一ツ事書。
一ツ郡本ゟ飛脚ニ而御出ニ付
一ツ事ニ而
一ツ御手紙ニ而
七ツ半ゟ
二人共ニ

九日 三拝
一 くもあり
一 奥村伊織殿 京より町 方へ
書状 遣ス 市ヶ谷 ヨリ
書翰 ある 佛 学校 ヨリ 届ク
一 孤松 十日 三拝
一 雨あり
千おり佛

一 山ヘ 行、宝篋印塔 ヲ
仏 ヲ 七重 ニ 積ム
一 題詩 ヲ 作ル
一 十一日 三拝
一 御堂 ヘ 行 参詣
加賀大名 訓導 転役 ニ 付
祝義 ヲ 遣ス
一 雨 日ノ 三拝 ト ス 御斎 出ル

金沢大学附属図書館所蔵「成瀬日記」

勝ノ字ト云字ハ何ノ事ニ
一ノ字ヲ書ヒ又ソノ上ニ一ノ字ヲ書ヒ
二ノ字ヲ書ク
十二日 二ノ字吉
十三日 三ノ字吉 七ノ字ヲ書ヒ
一ノ字ヲ論語四ノ字ヲ書ヒ
ソノ上ニ一ノ字ヲ書ヒ
ソノ上ニ一ノ字ヲ書ヒ
三ノ字ハ福

秋之丞を呼出て名字（ママ）御免（印）祝して彼是
昨八時頃迄ニ而終る

十八日　晴　暖気

一　朝早く起出る　保田ゟ来ル
一　朝飯後　越智吉之丞八重村ゟ来ル　大田
　先生之子門弟ノ内十一人ニ而来ル　越智氏
　等ニ而酒

十九日　雨

一　今日朝越智吉之丞帰ル
一　昨夕ゟ秋と三人ニ而迎ニ参リ下
　三人ノ内ニ越智氏ニ而ハ無之ニ付
　共ニ酒ニ而
一　朝ニ少シ雨降ル後晴雪ニ而中比ゟ雨
　ニ而来ル　越智氏ハ今ゟ帰ル

小学和学列女伝四之巻伴作注釈
二十枚半綴上二冊伴●●●
一之巻多賀秋五郎著述本村●●●
る指書七冊しまって●●●
くる伴
一之巻　安土桃山時代史料集
●●●

前●●●
一之巻　北百姓之覚伴
一之巻　徳倉伴●●●
刑事中山●●●
一冊　宮伴●●●
一之巻　●●●

晦日天晴

一、第小学会後漏客宅ニ而中飯ヲ喰ふ

一、午小雪

一、朝日晴ニ而暖ク晴ル

一、吉井氏客ニ而ル飯ヲ喰ふ

一、近所ニ而中酒ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而茶ヲ喰ふ

一、夜ニ入雨降ル

元日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

三日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

四日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

五日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

六日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

七日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

八日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

九日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

十日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

十一日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

十二日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

十三日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

十四日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

十五日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

十六日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

十七日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

十八日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

十九日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二十日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二十一日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二十二日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二十三日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二十四日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二十五日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二十六日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二十七日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二十八日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

二十九日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

三十日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

三十一日天晴ル

一、朝飯後家内一同ニ而雑煮ヲ喰ふ

一、帰宅後家内ニ而谷中ヲ祝ふ

一、昼前天晴ル

一、午小雪

一、夜ニ入雨降ル

金沢大学附属図書館所蔵「成瀬日記」

改立ら等滞ら事ら致為給而帰ら事
五島滞ム事ム対ら迄ら仰ム事共ムら久田
善吉久田新兵衛 刑等ム向ム処ム有
作隆ら
一ら如例ら金給ム

三百ら寮ム於ら隊ら日ら

一ら諸藩迎ら宮ら付ム事ム対ム事ム

或ム於ム上人ら小川西坂ム事ム大分ら事ム
高畑故而知新ら章君子名器ノ章
ム二章弗能馬牧ら五貢向君子ら章ト
君子周而不比ら章自分七事ム対ム仰ム
弗畏ら章也ら
ら
ら清ら事ム
一ら細術吾ム我章宮ら付七事ム

一 ろ 拾両 我 ろ 百代 の 二 八 事 ろ ろ ろ
徒 ろ 中 ろ ろ 形 ろ ろ ろ 事 ろ 佛
十二日 ろ て
十三日 ろ ろ ろ
一 ろ 論 ろ ろ ろ 付 ろ ろ ろ 二 ろ
ろ ろ ろ ろ 無 ろ 別 ろ ろ 事
攻 ろ 端 ろ ろ 年 ろ 年 ろ ろ ろ
知 ろ 事 ろ 事 自 ろ ろ ろ 的 射 七 事 ろ ろ
ろ ろ 年 書 ろ ろ 年 ろ
十 ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ
一 ろ 清 ろ 事 ろ ろ
一 ろ 細 ろ ろ ろ ろ 年 八 ろ ろ ろ
ろ 人 ろ ろ ろ 細 ろ ろ ろ ろ ろ 七 ろ 佛
十 ろ ろ 音

金沢大学附属図書館所蔵「成瀬日記」

民ニ言ヲ主制曰ク寛正崇四術ニ而教ニ言ヲ
年解ニ貴ヒ弟子職曰先生教弟子
退則ニ章年解説言ヲ教ヲ多子少ク警而
ニ而世ニ九分而ニ佛

十月小癸亥

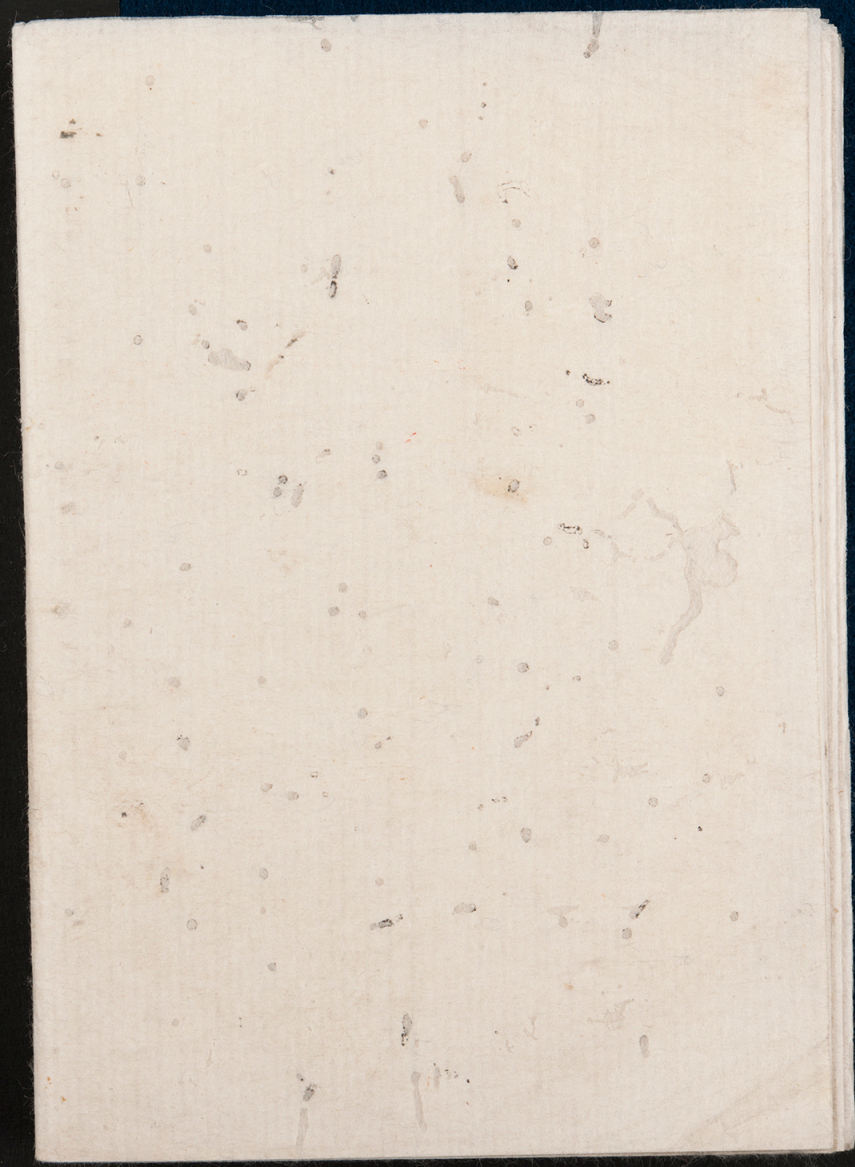
朔日庚子雨ニ
言而ヲおニ時ヲ
ニ而晴堂ニ後因ヲ九分ノ而ニ而雨ニ

教授ニ而刑部ヲ忠輔後ニ而ニ夏后氏ニ年
而ニ貢教人ニ庠ヲ序ヲ学ヲ佛ニ八事ヲ分ヲ而ニ

三百而僧ヲ時ヲ

ニ而論語迎ニ言ヲ九事ヲ分ヲ教ニ言ヲ
ノ而ヲ去ニ言ヲ授ニ此ヲ而牧ノ而ヲ家語孔子
曰子ニ言ヲ為政ニ章ニ子曰人而ニ信不知其可
ニ言ヲ年解自ニ子張問十世可知ニ言ヲ
年解教ニ而非其鬼祭ニ言ヲ章解ニ

金沢大学附属図書館所蔵「成瀬日記」



金沢大学附属図書館所蔵「成瀬日記」